

第3回 群馬県立都市公園指定管理者選定委員会

議事概要

日時：令和2年10月12日(月)

13時30分～16時30分

場所：群馬庁10階101会議室

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ：都市計画課長
- 3 事務局説明：第2次審査方法の確認
- 4 議事：申請団体によるプレゼンテーション・ヒアリング（第2次審査）
- 5 その他

○議事に関する主な質疑・議論

(1)「NPO 法人 KFP 友の会」プレゼンテーション・ヒアリング

(KFP 友の会プレゼン) 略

(委員)

- ・指定管理者制度についてあらためて確認したい。
- ・特定非営利活動法人 KFP 友の会としての持ち味、それが管理運営方針の中でどのように反映されているか。

(KFP 友の会)

- ・多方面からの理事の要望や活動のアドバイスをもとに、実際の管理運営にかなり生かしていると思う。

(委員)

- ・具体的にいうと持ち味は何だと考えているか。

(KFP 友の会)

- ・芝生の管理や緑管理、植栽管理である。職員と話合いで進めているところである。
- ・NPO 法人であるので、もらったお金のほとんどを施設管理にあてている。しかも、その施設管理は独断でやるのではなく、理事あるいはボランティアの人、県民が参加してくる中で運営している。

(委員)

- ・今回から期間が5年間に延長になる。前回3年前に申請したときから、全体の方針として変わったところはあるか。

(KFP 友の会)

- ・ ないと思う。

(委員)

- ・ このコロナ禍の中で、情報媒体や人々の好みがめまぐるしく変わる中で、本来予想した、あるいは見込みと違ったときにどのような対応をとるのか。

(KFP 友の会)

- ・ 基本は話し合いを十分にすることと、わからないことについては専門的な知識を得ながら進めていく。専門的な知識については県の窓口の担当課の方と相談する。

(委員)

- ・ 5年間で、基本となる維持管理業務以外で何をどこまでやるのか。

(KFP 友の会)

- ・ ローラー滑り台ののり面のところに少しずつアジサイを増やして行って、5年間かけてみなさんに楽しんでもらえるようにできればと考えている。

(委員)

- ・ 申請書自体、前回よりもずいぶん良くなったと思う。

(委員)

- ・ アンケートの結果をみると、利用者の住まいは高崎市内が半数となっている。県立公園なので高崎市以外の地域あるいは県外の方に来ていただくための工夫は何かあるか。

(KFP 友の会)

- ・ 広域公園として県外からの集客を増やしていくということを考えて日常の運営業務を見直していこうということで、力を入れ始めた。ロックフェス、テレビの撮影、花火大会など県外からも集客できるものを積極的に取り入れていこうと考えている。

(委員)

- ・ 一方で資料をみると「繁忙期の土日祝の公園来場者が収容能力の限界になりつつある」とあるが、これについてどのような状況なのか。

(KFP 友の会)

- ・ 具体的には、5月に開催している県民参加フェスティバル、例年10月に開催しているキッズハッピーフェスティバル、ともに二日間開催しているが、一日に一万を超える来園者になっている。駐車場の台数に限りがあるので、来園者の安全確保を優先しながらとめられるところは開放して駐車場を確保している。それでも、公共交通がないので市道から渋滞になり苦情が続く状況。大きな一日一万を超えるイベントをすることが本当にいいのかどうか、今回コロナのこともあるので検討しているところ。具体的には10月のキッズフェスティバルを少し期間の延長をして、まんべんなく10月にハロウィンを楽しんでもらえるよう、今回実験的に取り組みを変更して進めている。

(委員)

- ・経費削減のためだと思うが、今まで外注だった作業を職員さんが器用にやっている。素晴らしいことではあるが、平均年齢が高くて新規の人材確保が難しい状況になっているのがわかる。そういった人たちが退職したときの作業の継続について大丈夫なのか心配であるがこれについてはいかがか。

(KFP 友の会)

- ・指定管理料が正職員を雇うだけの資金力がない。募集をしても応募してくるのがほぼシニアである。そこで、シニアを中心にシニアのための生きがい、働きがいのある職場に変えていこうと方向転換した。高齢者ならではのきちんとした作業をしてくれるが、就労期間が短く5、6年。そのところのバトンタッチをどうしていくかが課題であるが、有資格者もきており、経費が安くても質は確保が出来ている。

(委員)

- ・それは非常にいいことだと思う。

(委員)

- ・修繕費など予算に無理がないか。

(KFP 友の会)

- ・指定管理料で我々が一番おそれているのが最低賃金の上昇である。パートの人件費の単価をあげるとどうしても修繕費にしわ寄せがいく。修繕費が下がるということはその分賃金が上がっていく見込みであるということ。全体のバランスをみて判断している。

(委員)

- ・県に増額を要求する可能性はあるのか。

(KFP 友の会)

- ・県にも修繕は依頼していくが、一般管理費をとらずに浮いたお金を施設整備にまわしているの、その点は増減がかなりあるということでご理解いただきたい。

(委員)

- ・SDGsの指標化を考えているということだが、具体的にどういうことか。

(KFP 友の会)

- ・まだ具体的に伝えられるものは無いが、群馬県の広報をみて、こういうものを参考にしながら考えていく必要があるなと思った。みんな考えてよい公園にしていこうと呼びかけていくためにもあえて一番最初に入れたものである。

(委員)

- ・とてもいいことだと思うし、非常に積極的で、前回のプレゼンに比べて、多少余裕と積極性と安定感があった。

- ・SDGsのポイントは、決して17項目とか一つ一つのターゲットではなくて、そうした問題をみんなで考えながら自分たちのやっていることがこの項目に当たるかもしれない、だからこれを目指すということと、環境だけ、社会だけではなく、経済とバランスをとるという発想をみなさんが持つことはいいことであると思うので、ぜひSDGsを取り入れてKFPの売りにしていただきたい。
- ・率直に言って感動したが、具体的にどうなっているのか次の評価委員会でチェックされると思うので、頑張してほしい。

(KFP友の会)

- ・これから学習会を計画していく予定である。

(委員)

- ・副園長の位置づけについて教えてもらいたい。書き方の問題で、副園長だけ蚊帳の外ということではなく、それぞれの下にいろいろな班がつくということか。

(KFP友の会)

- ・そのとおりである。

(委員)

- ・Wi-Fiのことについては、県と協議して具体性をもって進めた方がよいと思う。

(KFP友の会)

- ・Wi-Fiについては、ここ何年か県に要望させてもらっている。11月には交流室にWi-Fiの設備を取り付ける予定である。

(委員)

- ・配っていただいた小冊子は、すごく良くまとまっていると思うが、来園者にたいしてどのように使っているのか。

(KFP友の会)

- ・これを持ちながら公園の中をみていただければありがたいと思い作成した。
- ・観音山丘陵全体の植生に関する一端の知識も得られるものであると考えている。
- ・500円の単価で販売している。

(委員)

- ・公園を利用している人はこれを使っているのか。丁寧に出来すぎていて使いづらいのでは？この中からいくつかを選んで、子どもたちにスタンプラリーのようなかたちで月々確認してもらったら、もっと有効活用できるのではないか。

(KFP友の会)

- ・毎月植生調査とあわせて、自然の森を歩こうということで参加者を募集して取り組んでいる。毎回テーマを決めているので、少しずつではあるが市民のみなさんや子どもたちにも広まっているかと思う。

(2) 観音山ファミリーパークに関する意見交換

(委員)

- ・観音山ファミリーパークに関しては申請が一者ということで、選ぶというより、いいかどうかについて判断するものである。
- ・小規模修繕に結構お金がかかるので、土木事務所がやるふんと指定管理者がやるふんとその辺の話し合いによって変わるものであると思う。

(委員)

- ・20万ということだが、もう少しあげていただければと思うが。
- ・運営はかなり厳しいと思う。

(委員)

- ・書類審査においては、公園愛にあふれていて経験も長いのでこれといって非の打ち所がない。実際お話を伺ってもいろいろ工夫をされていて、特にシルバー人材の活用はとても良いと思う。問題は繁忙期のキャバを超えているというのは、指定管理者の考える枠を超えてしまっていて、駐車場が足りないとか公共交通がないとかは県で考えてもらいたい。本当によくやっていると思う。

(委員)

- ・評価委員会の年度のまとめをみても評価はAである。

(委員)

- ・市外、県外を呼ぼうとすれば土日になる。それを抑制しなければならない方向だというのはかわいそう。

(委員)

- ・隣のケルナー広場との関係はどうなのか。高崎市の旧カップピアの跡地で、ケルナーさんという有名な遊具デザイナーのものがはいりだして、また人が行きはじめている。相乗効果でますます駐車場が足りないということになりそうである。

(委員)

- ・駐車場のキャバは何台くらいなのか。

(事務局)

- ・780台程度である。

(委員)

- ・それでは1万人来たら四苦八苦する。

(委員)

- ・個人のテントを持って1日過ごすような滞在時間の長い人が多くなっている傾向にある。
- ・一方で、年間利用回数が2、3回と少ないのが気になり、気軽に日常的に利用したい公園というよりは、1日遊ぶつもりででかける公園になっている印象はある。

(委員)

- ・テレワークやリモートのことも考えると、これから公園の使い方が多様化し、どのような使われ方をするのか読めない時代になっている。

(委員)

- ・自然の中のいままで見向きされなかった野草などに注目して、これまでの自然観察とは違ったライフスタイルというものも出てくる。成果目標も単なる人数だけではなく質的な面でみていくことも必要ではないか。

(3)「JA 邑楽館林千代田町緑化組合」プレゼンテーション・ヒアリング

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合プレゼン) 略

(委員)

- ・指定管理者制度についてあらためて確認したい。
- ・「JA 邑楽館林千代田町緑化組合」の持ち味は何か。それが管理運営方針にどのように反映されているか。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・私たちは造園業者9社からなっているので、それぞれの特色を生かした管理に努める。芝刈り草刈りや樹木調整等を実施しているが、景観に配慮した対策を今後行っていきたい。
- ・それらが低料金で実施できればいいと思うが、安かろう悪かろうにならないように基準はきっちりと実施していきたい。

(委員)

- ・前回選定された側として、何が評価されて選ばれたと思うか。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・地元において造園関係、公共事業など色々な対応をしており、この組合であれば確実に多々良沼公園の管理、自主事業の実施ができると認めてもらったと思っている。

(委員)

- ・申請書の内容、提案の内容がおおざっぱでやや具体性に欠ける。例えばゾーンごとにかかえている課題、問題はかなり違う。管理方針を考える上でそれぞれのゾーンでの最も重要な課題とは何だと思うか。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・自然ふれあいエリアでは、眺望、景色を良くするための雑草対策。野鳥のエリアでは、11月下旬から白鳥が飛来するので、それに合わせた整備。憩いと花のエリア、多々良の森エリアについては、岸辺に生えている雑木の剪定をして景色、眺望をよくすることが課題であると考えている。

(委員)

- ・そのような形で示していただかないと、こちら側が理解しづらい。例えば、多々良の森エリアは芝生の問題とか植物の保護だとか、そういう具体的な事に対して管理者としてどうしたいかという事を確認したい。その辺を踏み込んで書いていただくと良かった。
- ・この公園は関わる団体が非常に多い。それぞれの団体がやっていることは異なる。全体での共有化の話がされていたが、むしろ、大事なのは個別の細かい対応である。各団体は行政に対する関わり方と民間の方に対する関わり方はおのずと違ってくる。個別の対応方針として具体的にひとつかふたつあげてもらいたい。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・行政に対しては、整備・管理においては予算が限られているのが問題である。
- ・民間の方に対しては、友好関係を築きながら今後の対応について見いだせればと考えている。
- ・今後は多々良沼を良くする懇談会を設置して各種団体等と情報交換ができれば考えている。

(委員)

- ・質問の意図は、敷居の高さの問題を聞きかかったのである。
- ・例えば民間の方だと地元の区長さんを知っているなど人間的なつながりがあって、行政が得られにくい情報が取りやすいなどメリットがあるのではないかと。

(委員)

- ・予算案で、指定管理料が抑えていることは有りがたいことだとは思いますが、人員配置については、十分なのか。正規職員が6人いて、勤務シフト表をみるとトイレの清掃とかは週3回と書いてあるが、この表を見る限りよくわからない。具体的にはどのように清掃を行っているのか。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・トイレの清掃は1日2回午前と午後、計画以上に実施している。
- ・午前中は業者委託、午後は、常勤職員が4カ所あるトイレを清掃したり、ペーパーの補充をしたりしている。

(委員)

- ・それはいいことだと思う。
- ・自主事業について、多々良沼自然公園内にあるツタや木の実を使っていろんなものを作るとあるが、会場はビジターセンターの中にあるのか。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・会議室を使っているが狭い。コロナの関係で現在は定員の半分の5名程度。
- ・今後は狭い会議室も使っていきたいと思っている。

(委員)

- ・例えば外部会場、公民館だとかを使うことは考えていないのか。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・公民館では、フォトコンテストを2回ほど実施したことがある。
- ・館林美術館は借りられないようである。

(委員)

- ・令和2年度、コロナ禍においても来場者が増えているということだが、あまりコロナの影響は受けていないということか。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・昨年は日本遺産の関係もあるのか、来園者は増えている。
- ・遠くへ行けない方が来ているのではないかと思われ、駐車場が満杯になることもある。

(委員)

- ・安全管理について、安全マニュアルとあるがどのようなものであるか？

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・一日2回のパトロールによって、エリアごとに沿道、草地その他を見回っている。
- ・簡単なマニュアルはあるが、大きなものは出来ていないので、作成を考えている。

(委員)

- ・緊急対応について、落雷の予測が出た場合や地震のときの周知、誘導はどのようにしているのか？

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・自衛消防隊的なものは組織されていて訓練を行った。
- ・園内が広いので、4カ所あるトイレに緊急連絡先等を掲示している。

(委員)

- ・もっと緊急の場合など、園内にスピーカーの環境はないのか。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・今現在はない。

(委員)

- ・自然再生に向かって公園が整備されているということだが、自然再生とは何か見解を聞きたい。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・多々良沼公園の4, 50年前の原風景に近づけたいと考えているが、なかなか進んでいないというのが現状。愛する会さんのご指導のもと、いろいろと取り組みたい。

(委員)

- ・絶滅危惧種などの現状は把握できているのか。
- ・3年間どうしてきたのか。また、これからどうしたいか。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・今すぐ具体的なことは実施していなかったのが現実である。
- ・今後はご指導を仰ぎながら色々連携を図っていきたいと考えている。

(委員)

- ・日本遺産の登録がこの3年間のうちになされたが、登録の運動に対してどう関わってこられたのか。この2年間何をなさってきたのか。

(JA 邑楽館林千代田町緑化組合)

- ・昨年の5月20日に日本遺産に認定されたが、それまで市役所からは一切連絡がなかったので何もできなかった。認定になってから、認定式に出て欲しいということで参加させてもらった。館林市さんの管轄エリアで除草が進んでいないのももう少し頑張ってもらいたい。日本遺産関連のイベントについては担当者レベルで協議しているところである。

(4)「館林邑楽造園事業協同組合」プレゼンテーション・ヒアリング

(委員)

- ・指定管理者制度は何かを踏まえた上で、館林邑楽造園事業協同組合さんの持ち味は何か。それが管理運営方針にどのように反映されているか。

(館林邑楽造園事業協同組合)

- ・今現在、道路を挟んで隣の公園の管理や松林の中の公園の管理をさせてもらっているので、より大きな機材、器具を持ち込んで管理が可能である。

(委員)

- ・前回おしくも選ばれなかったが、前回は踏まえて何か改善、あるいは変えたところはあるか？

(館林邑楽造園事業協同組合)

- ・前はプレゼンテーションで的が絞りが切れていなかったもので、今回は利用者の安全安心に的をしぼった。自主事業についても完全に出来るものにしぼるようにした。

(委員)

- ・発表の準備を含めて、十分な準備がなされたと思うか。

(館林邑楽造園事業協同組合)

- ・前回の発表を踏まえて、現地にも足を運びいろいろと調査した。
- ・その中で歴史的に埋もれた話なども知ることができた。

(委員)

- ・申請書について、提案の内容がおおざっぱでやや具体性に欠けるという印象。それぞれのゾーンごとに抱えている問題が違うと思うが、一番重要な問題は何で、それについてどのように対応するか。

(館林邑楽造園事業協同組合)

- ・一番の問題は情報発信力の弱さであると考えている。
- ・地元の方でも公園についてよく知られていないと感じている。白鳥が飛来する、がば沼エリア、じょう沼など情報に厚みをもたせて発信する、ホームページを充実させる。関連リンクをはるなどして情報発信力を高めていきたい。

(委員)

- ・この公園は関わる団体が多いが、それぞれの団体に対する対応方針について聞かせてもらいた。また民間であることの優位性という点についてのお考えを教えてください。

(館林邑楽造園事業協同組合)

- ・関係団体の連絡調整、横のつながりをとirmつ、その点で園長予定にしている方は適任と考えている。
- ・民間としての優位性は利用者に対するマナーは公共よりもサービス向上できると考えている。特に駐車場より奥に入る工夫はしていきたいと思っている。

(委員)

- ・普通の公園と自然公園の管理運営の内容はどのように違うと考えるか。
- ・この申請書を作るのに調査はどのくらい行ったのか。私からみるとほとんど調査されてないように見える。
- ・公園の管理で今一番問題なのは、ねこ犬の糞尿の処理、その辺のマナーをどうするか。

(館林邑楽造園事業協同組合)

- ・雑草や害虫に対する薬剤の使いかたが違う。都市公園などはなるべく草が生えないように薬剤を使ったり、きれいに刈ったりするが、自然公園はやたらとは使えない。生態にあわせた除草の仕方をする必要がある。
- ・確かに、希少種などの知見はまだ足りないと思う。何がどこにどれだけあるというのはつかみかねている。管理を任せられたら教えて頂きたいと考えている。
- ・ねこ犬の糞尿の問題は、注意してもきれいなところがあると思うので、地道に片付けるしかない。

(委員)

- ・沼の蓮に対する考え方が違う団体があるのではないかと記載されているが、あれはもともと捨てられた物であり、それが一気に増えた。土木事務所で税金を使って刈っている。考え方が違うとはどういうことか。公園管理者としてどうあるべきかが大事なのではないか。
- ・蓮のために沼の水が汚れているということを認識しているかいらないか。
- ・じょう沼と多々良沼と両方を調査して、その結果が市役所で発表されているが、その調査も出来ていないのではないか。

(館林邑楽造園事業協同組合)

- ・色々な団体がたずさわる中で表現が適切ではなかった点はある。
- ・多様な意見がある中で、現時点でははっきり結論が出せなかった。

(委員)

- ・意見ではなくて、現実である。
- ・管理者として何が正しいかは誰かの意見ではなく、科学的な根拠に基づいて判断すべきである。

(館林邑楽造園事業協同組合)

- ・今のところ、どちらということはいいかねる。
- ・今後、柔軟に調整できるのも民間のいいところであると考えている。

(5) 多々良沼公園に関する意見交換

(委員)

- ・多々良沼のあるべき姿というか、こういうふうにしたいというビジョンは県のほうで持っているか。

(事務局)

- ・自然再生を行い、環境保全活動の拠点であり、原風景の話が出たが、外来種をいかに駆除して昔の状態に戻せるかということに取り組んでいる。

(委員)

- ・今、言葉で出た原風景なるものが、実際難しい。
- ・いつの時代の多々良沼を目指すのか、イメージの共有化から出発すると多々良沼の良さを発信できるのではないか。

(委員)

- ・過去にいつも時代の多々良沼を目指すのか、県と地域住民で話合っているはず。ただ、県も人が変わるなかでうすれてしまっている。
- ・沼全体も人と自然との調和を図っていくためにはどうしたらよいか、日々考えていくことが必要であると考えている。
- ・人の手がある程度加えながら公園を維持していくことが多々良沼公園の大事なあり方でないか。
- ・応募者はそのあたりのことを正確に理解していないと感じる。

(委員)

- ・人工的に人間が介入するというのはなかなか難しいし、時代の要請もある。薪炭をとらない時代に薪炭とるための雑木林をどう守るのかという議論もある。時代の要請で違うということと、指定管理者に管理をまかせるというのは別の次元の話だと思う。
- ・先程、団体間で意見が違うという話があった。例えば、昭和の時代というイメージが共有されて、それぞれの団体で何ができるかという調整を指定管理者がするなら、非

常に機関としてはよい。そういうとりまとめをやっていただくために、指定管理者が音頭をとる。むしろそのように団体の方が指定管理者に仕向けることが重要ではないか。

- ・多々良沼は、たたずまいの問題と生態系の問題がある。昭和のイメージがあって、そのイメージのためにどうやってたたずまいを整えていくか、各団体にどう協力してもらうのか、指定管理者はどうやって緑地の管理をするのか。
- ・生態系を守ることにに関して、各団体には何ができるかという問いかけをしていくほうが、公園にとってよいのではないか。
- ・そういう働きかけを団体からする方が建設的ではないか。

(委員)

- ・ひとりよがりな団体もあり、団体間の協力が難しい。

(委員)

- ・根が深い問題であり、少しずつそれぞれの団体にわかってもらう努力を続けるしかない。

(委員)

- ・日本遺産で多々良沼が実りの沼として位置付けられたのは、産業基盤であることが重要であった。人が関与することで生態系が維持される仕組みをもう一度どのように作りなおすかではないか。
- ・どちらの団体が選ばれても、各団体を調整できるとは思えず、県が音頭を取るべきではないか。

(委員)

- ・確かに調整能力を求めるとすれば県ではないか。

(委員)

- ・多々良沼公園は館林市と邑楽町、明和町全体がかかわっていて、政治問題もあり難しい。

(委員)

- ・多々良沼公園はエリアによって全然顔が違う。協働の対象になるボランティア団体がそれぞれ違う仕事をしているのでそれをまとめるのは難しい。
- ・管理者を地域によって二つに分けて、予算も二つに分けるような方法でもよいのではないかと感じた。
- ・二団体とも造園についてはプロだがそれ以外については弱い。

(委員)

- ・企画調整能力からいうとやはり県なので、担当の方が変わっても首尾一貫となるように記録を読んで分かるように残してもらって、積み上げていくしかないと思う。
- ・基本的に多々良沼の管理は緑地の管理がメインなので、それ以外はプラスアルファの部分が多いと思う。